

単元構想シート

学部・学年	小学部 5・6 年
教科・単元名・時数	【図画工作科】「野菜や果物を描こう」（小学部 2 段階）全 5 時間

1 児童生徒の実態

- 5、6 年生とも、いろいろな素材（タンポやスポンジブラシ、スポイトなど）を使い、自由に「かく、ぬる」などの活動に取り組んできている。
- 材料や用具を、一人で使うことができる児童から、支援を受けて使う児童まで、実態には幅がある。
- 教師が提示した手本を見て、同じようにかくことができる児童が 3 名いるが、自分で表したいことをイメージすることは難しい。
- 手順を示すことで、表現の活動に取り組むことができる児童から、作り出す楽しさに気付くことに時間を要する児童まで実態には幅がある。
- 休み時間に塗り絵をする児童がいるが、余暇として楽しむまでには至っていない児童が多い。

2 単元の目標

- 野菜や果物を見たり触ったりして感じたことをもとに、絵の具を使って形や色を工夫してかく。（知識・技能）
- 野菜や果物を見たり触ったりして感じたことをもとに、表したいことを考えて形や色を選んだり、自分たちの作品の面白さや楽しさを感じ取ったりする。（思考力・判断力・表現力）
- 絵の具を使ってかく楽しさに気づき、野菜や果物を好きな形や色で表す活動に進んで取り組む。（学びに向かう力・人間性等の涵養）

3 単元における見方・考え方

- 野菜や果物を見たり触ったりしたことを形や色でとらえる。
- 食べたときや収穫したときなどの経験と結び付けて、野菜や果物をかく。

4 単元構成の工夫

- 単元の始めでは、これまでの「かく、ぬる」活動を思い出し、絵の具を使っていろいろな色水や形を表現する楽しさを感じることができるようになりたい。また、タンポや筆、絵の具の使い方に慣れさせるとともに、児童が表現しやすい道具を確認する。
- 野菜や果物の形や色、触った感じやにおいを言葉で表現する場面を設定し、表したいイメージをもてるようにする。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
いろいろな模様を描こう	1	・ 用具の使い方 ・ 好きな色の選択 ・ 混色による色の変化への気づき	・ いろいろな色水で、直線や曲線、丸や三角などをなぞって描かせる。 ・ 選択した絵の具や混色による色の変化をジュースなどに例えるような言葉を引き出し、イメージをふくらませる。	○		
いろいろな野菜や果物を触ってみよう	1	・ 形や質感、色などの言語化 ・ 描きたい対象の選択 ・ イメージを作り出す	・ 複雑でない形や色の野菜や果物を題材とすることで、次時に絵の具で表現しやすいようにする。 ・ いろいろな野菜や果物を準備し、見たり触ったり、においをかいだりして、形や色、質感などについて言語化させ、イメージを膨らませることができるようにする。		○	○
トマトを描いてみよう	1	・ 形や色の違い ・ イメージを作り出す	・ トマトに触れる時間を多く設ける。 ・ トマトの色や形など言葉にさせたり、教師が代弁したりすることで、作品のイメージをもたせ、描くようにする。	○	○	
好きな野菜や果物を描いてみよう	2	・ 形や質感、色などのイメージの表現 ・ 作り出す楽しさへの気づき	・ それぞれが工夫している点を言葉にさせたり、教師が代弁したりしながら、活動の過程や出来上がった作品に意味付けをしていくようにする。		○	○

○既習内容の学習状況

○既習内容の学習状況（知識・技能、思考・判断・表現）
○障害等による学習の困難

○資質・能力の三つの柱
○各資質・能力の関連
・本単元で習得した知識・技能を活用し、どのように思考・判断・表現できるようになることをめざすか
・その過程で、工夫して取り組んだり、自分の考えを述べたりする等、どのような学習に取り組む態度を引き出すか

○見方・考え方の想定
・学習指導要領解説等を参考に、本単元において、子どもたちが「何に着目するか」「どのように考えるか」を具体化

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出す場面の設定

○各題材における評価の観点
・「知・技」は「知識・技能」
「思・判・表」は「思考・判断・表現等」
「主」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す

○「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出すための指導上の工夫

単元構想シート

学部・学年	小学部 5・6 年
教科・単元名・時数	【図画工作科】「野菜や果物を描こう」（小学部 2 段階）全 5 時間

1 児童生徒の実態

- 5、6 年生とも、いろいろな素材（タンポやスポンジブラシ、スポイトなど）を使い、自由に「かく、ぬる」などの活動に取り組んできている。
- 材料や用具を、一人で使うことができる児童から、支援を受けて使う児童まで、実態には幅がある。
- 教師が提示した手本を見て、同じようにかくことができる児童が 3 名いるが、自分で表したいことをイメージすることは難しい。
- 手順を示すことで、表現の活動に取り組むことができる児童から、作り出す楽しさに気付くことに時間を要する児童まで実態には幅がある。
- 休み時間に塗り絵をする児童がいるが、余暇として楽しむまでには至っていない児童が多い。

2 単元の目標

- 野菜や果物を見たり触ったりして感じたことをもとに、絵の具を使って形や色を工夫してかく。（知識・技能）
- 野菜や果物を見たり触ったりして感じたことをもとに、表したいことを考えて形や色を選んだり、自分たちの作品の面白さや楽しさを感じ取ったりする。（思考力・判断力・表現力）
- 絵の具を使ってかく楽しさに気付き、野菜や果物を好きな形や色で表す活動に進んで取り組む。（学びに向かう力・人間性等の涵養）

3 単元における見方・考え方

- 野菜や果物を見たり触ったりしたことを形や色でとらえる。
- 食べたときや収穫したときなどの経験と結び付けて、野菜や果物をかく。

4 単元構成の工夫

- 単元の始めでは、これまでの「かく、ぬる」活動を思い出し、絵の具を使っていろいろな色水や形を表現する楽しさを感じることができるようになりたい。また、タンポや筆、絵の具の使い方に慣れさせるとともに、児童が表現しやすい道具を確認する。
- 野菜や果物の形や色、触った感じやにおいを言葉で表現する場面を設定し、表したいイメージをもてるようにする。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを 実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
いろいろな模様を描こう	1	・用具の使い方 ・好きな色の選択 ・混色による色の変化への気付き	・いろいろな色水で、直線や曲線、丸や三角などをなぞって描かせる。 ・選択した絵の具や混色による色の変化をジュースなどに例えるような言葉を引き出し、イメージをふくらませる。	○		
いろいろな野菜や果物を触ってみよう	1	・形や質感、色などの言語化 ・描きたい対象の選択 ・イメージを作り出す	・複雑でない形や色の野菜や果物を題材とすることで、次時に絵の具で表現しやすいようにする。 ・いろいろな野菜や果物を準備し、見たり触ったり、においをかいだりして、形や色、質感などについて言語化させ、イメージを膨らませることができるようにする。		○	○
トマトを描いてみよう	1	・形や色の違い ・イメージを作り出す	・トマトに触れる時間を多く設ける。 ・トマトの色や形など言葉にさせたり、教師が代弁したりすることで、作品のイメージをもたせ、描くようにする。	○	○	
好きな野菜や果物を描いてみよう	2	・形や質感、色などのイメージの表現 ・作り出す楽しさへの気付き	・それぞれが工夫している点を言葉にさせたり、教師が代弁したりしながら、活動の過程や出来上がった作品に意味付けをしていくようにする。		○	○